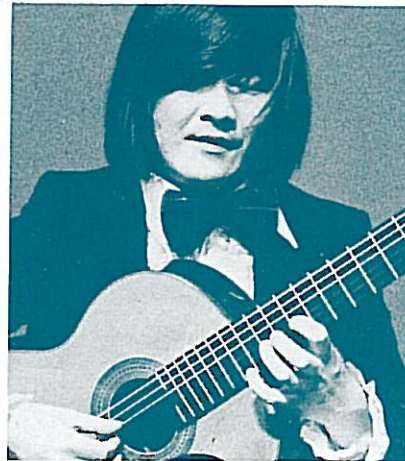


指揮 ■ 外山雄三

ギター ■ 芳志戸幹雄



外山雄三—1952年東京芸大作曲科卒業。同年よりN響、63年より大フィルの指揮者を兼任し、67年両オーケストラを辞任した。67年～70年京都市響の常任指揮者に就任。その間、ソ連、ヨーロッパの各都市にN響の海外演奏旅行で同行、また、オーケストラに招かれ、いずれも成功をおさめた。以来、オーケストラと協演、オペラの指揮など意欲的な活躍を続け、特にストラヴィンスキーのオペラ「カテリーナ・イズマイロワ」、「エディアス王」、シューベルト「月につかれたピエロ」などを日本初演している。一方作曲家としての活動もめざましく高い評価を得ている。79年よりN響の正指揮者に就任した。

芳志戸幹雄—1941年の生まれ。68年デビューリサイタルを開催した後、上智大を中退しスペインに留学、国際音楽講習会に奨学生として参加し、セゴビアにレッスンを受けた。70年に帰国するまでスペイン、イタリアでリサイタルを開催している。以来クラシック・ギターの演奏を続けるかたわら、現代曲の演奏を多くてかけ、78年には武満徹の要請でバリの秋芸術祭に出演し好評を博するなど、活躍を続けている。

都響演奏会ご案内 只今会場ロビーで前売中！

●80年度楽季〈中期〉定期演奏会 新会員募集中！ 毎夕 東京文化会館 6時45分

No. 128定期 9月16日(火)17日(水)

モーツァルト：交響曲第39番 変ホ長調K. 543
 シューマン：ピアノ協奏曲 イ短調 作品54
 ラヴェル：舞踊音楽「ラ・ヴァルス」
 指揮/ジャン・フルネ ピアノ/内田光子

No. 129定期 10月21日(火)22日(水)

マーラー：交響曲第9番 ニ長調
 指揮/モーシェ・アツモン

No. 130定期 11月28日(金)29日(土)

〈モーシェ・アツモン/ベートーヴェン・シリーズ3〉
 ベートーヴェン：交響曲第9番 ニ短調「合唱付き」
 指揮/モーシェ・アツモン
 ソプラノ/常森寿子 アルト/春日成子
 テノール/板橋 勝 バリトン/齋 求
 合唱/日本プロ合唱団連合

No. 131定期 12月19日(金)20日(土)

ヘンデル：合奏協奏曲第12番 ロ短調 作品6-12
 武満 徹：“Far calls. Coming, far!”
 For Violin & Orchestra (遠い呼び聲の彼方へ/1980)
 ストラヴィンスキー：舞踊音楽「春の祭典」
 指揮/小林研一郎
 ヴァイオリン/アイダ・カヴァフィアン

★会員券(4回連続同一指定席) A ¥10,000 B ¥8,800 C ¥6,800 学生(事務局のみお取り扱い) ¥4,400
 1回券 A ¥3,000 B ¥2,500 C ¥2,000 学生(事務局のみお取り扱い) ¥1,300

●ファミリーコンサート

No. 135 9月30日(火)新宿文化センター 6時45分

メンデルスゾーン：交響曲第4番 イ長調「イタリア」
 ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番 ハ短調
 イベール：寄港地
 指揮/ジャン・フルネ
 ピアノ/北川暁子
 ★A ¥1,400 B ¥1,000

次回のファミリーコンサート

9月中旬前売り開始！
 No. 136 11月23日(日・祝)東京文化会館 2時
 ドヴォルザーク：チェロ協奏曲
 ラヴェル：組曲「マ・メール・ロア」
 ラヴェル：ボレロ
 指揮/モーシェ・アツモン チェロ/藤原真理
 A ¥1,400 B ¥1,000 自由席 ¥500

●特別演奏会〈モーシェ・アツモン/ベートーヴェン・シリーズ〉

シリーズ1/11月7日(金)新宿文化センター 6時45分

レオノーレ序曲第3番 作品72-B
 交響曲第8番 へ長調 作品93
 交響曲第5番 ハ短調 作品67「運命」

シリーズ2/11月15日(土)新宿文化センター 6時45分

エグモント序曲 作品84
 交響曲第2番 ニ長調 作品36
 交響曲第6番 へ長調 作品68「田園」

★両日共 A ¥2,300 B ¥2,000 C ¥1,700 学生(事務局のみお取り扱い) ¥1,400 定期会員は1割引です。

東京都交響楽団事務局・〒110 台東区上野公園5-45 東京文化会館内 (822) 0726-7

■皆様へお願い 演奏中の写真撮影・録音および演奏中の入場は固くお断りいたします。■

都響

ファミリーコンサート
 TOKYO
 METROPOLITAN
 SYMPHONY
 ORCHESTRA
 NO.134



東京都交響楽団
 指揮 ■ 外山雄三

'80=8月8日(金)6時45分
 杉並公会堂

24番

'80=8月8日(金)6時45分
 杉並公会堂

25番

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
(1756~1791)

喜遊曲第2番 ニ長調K.131

ホアキン・ロドリゴ
(1902~)

アランフェス協奏曲

—— 休憩 ——

フランシス・プーランク
(1899~1963)

「フランス組曲」ジェルヴェーズの作品による

ジャック・イベル
(1890~1962)

喜遊曲

指揮 ■ 外山雄三

ギター ■ 芳志戸幹雄

WOLFGANG AMADEUS MOZART(1756~1791)

Divertiment No.2 in D-major K.131

JOAQUÍN RODRIGO(1902~)

Concierto de Aranjuez

—— Intermission ——

FRANCIS POULENC(1899~1963)

Suite Française d'après Claude Gervaise

JACQUES IBERT(1890~1962)

Divertissement

Conductor ■ YUZO TOYAMA

Guitarist ■ MIKIO HOSHIDO

★はじめに

今晚の演奏会は、《小管弦楽のたのしみ》ということ
で、いわゆる室内楽と管弦楽との中間に位置するよう
な作品が並べられております。管弦楽は、何人以上の編成を
さすのだといったげんかくな定義はもちろんありません
が、一般的には、ハイドンやモーツァルトが交響曲を書
くために用いた2管編成(最低30~40人)以上を管弦楽
とよんでおります。この2管編成は、歴史とともに拡大
され、ワーグナー、マーラー、R.シュトラウスなどをつ
うじて、19世紀末には5管編成(120人位)などという膨
大な管弦楽もあらわれたことはご承知のとおりです。い
っぽう室内楽は、ヴァイオリン・ソナタや、チェロ・ソ
ナタなどのような二重奏曲を最小の単位として、ピアノ
・トリオ、弦楽四重奏といった定形の編成を基本にして、
せいぜい8重奏、9重奏ぐらいまでを一般的には室内楽
とよんでいます。しかし、こういった室内楽と管弦楽との
中間の曲も以外と多く、また、名曲も少なくはありま
せん。これらの作品は、あるいは室内楽の延長線上にあ
ったり、あるいは管弦楽の縮小形のようなものであつた
り種々まちまちですが、だいたい、音楽的に楽しい遊
びの気分をもった作品が多く、また、それだけに演奏者
の個性を楽しむといった、独特のサロンの雰囲気をも
っているといえるでしょう。

★モーツァルト：ディヴェルティメント(喜遊曲)第2番
ニ長調K.131

モーツァルトは、宮廷や貴族の依頼を受けてパーティ
ーの食事の時や、野外などで演奏するためのいわゆる
「実用音楽」をたくさん作曲しました。これらの曲は、
ディヴェルティメントやセレナードと名づけられました
が、今日ではそれらの目的をはなれて、天才モーツァ
ルトのひらめきを感じる魅力ある作品として、私たちを
楽しませてくれております。K.131の曲はモーツァルト
16才のときの初期の作品ですが、若さに溢れ、はつらつ
としたすばらしい作品です。2回目のイタリア旅行から故
郷に帰った直後の作品だけに、イタリア的なきらびやか
な作風をもっているといえるでしょう。この曲の特徴は、
フルート、オーボエ、ファゴットのそれぞれ1本の木管と、
4本のホルン、それに弦といった変った編成ももってい
ることでしょう。3本の木管は、それぞれソリスティッ
クに扱われ、4本のホルンは、ひとくみとしてこれか
なり重要にソリスティックに扱われています。

- 第1楽章 アレグロ (全員合奏、序曲的な楽章)
- 第2楽章 アダージョ(弦楽のみ)
- 第3楽章 メヌエットと3つのトリオ(メヌエットは
弦楽のみ。第1トリオは4本のホルン、第2トリオ
は、3本の木管、第3トリオは管楽器全員)
- 第4楽章 アレグレット(全員合奏)
- 第5楽章 メヌエットと2つのトリオ(メヌエットの
冒頭が4本のホルン)
- 第6楽章 アダージョ(管楽器のみの序奏) ——アレ
グロ・モルト(全員合奏)

★ロドリゴ/アランフェス協奏曲

最近では、我が国でもたいへんにポピュラーになった
ギターと管弦楽のための協奏曲としては、代表的な名曲
です。1902年に生まれたスペインの作曲家ロドリゴは、
3才のときに伝染病で視力を失い、失明の作曲家として
しられ、我が国にも数年前に来日しました。この曲は、
今からちょうど40年前、ロドリゴが新婚旅行のとちゅう、
マドリッド郊外にあるアランフェスの離宮を訪れた
時に楽想を得て作曲したといわれます。アランフェスの
離宮は、16世紀のなかば頃にカルロス1世が建てたもの
で、サラセン風建築の多いスペインでは珍らしく純西歐
風のロココ形式で建てられた優美なお城で、スペインの
ヴェルサイユ宮殿とよばれております。ロドリゴは、
この宮殿の美しさと庭園のすばらしさなどを肌で感じて、
目のみえる人には書き表わせないようなすばらしい協奏
曲を作曲し、さきごろ来日した世界のギターの至宝、セ
ゴヴィアに捧げたのでした。

ギターは、ひじょうに繊細な楽器で音量も弱いので、
ロドリゴは、それとのバランスをとる意味で管弦楽の
縮小形を用いました。その意味では、前のモーツァルト
が作風的には室内楽寄りなのにひきかえ、この曲では明
らかに管弦楽寄りということが出来るでしょう。

- 第1楽章 アレグロ・コン・スピリート
- 第2楽章 アダージョ
- 第3楽章 アレグロ・ジェンティーレ

★プーランク/フランス組曲

プーランクは、今世紀前半活躍したフランスの作曲家
です。当時のフランスは、ドビュッシーやラヴェルの印
象主義が隆盛をきわめていた時代でしたが、ラヴェルな

どよりは20年ほど遅く生まれたプーランクは、むしろ繊
細で優美な印象派とはあい反した明解な新古典的な作風
をうち出し、そのなかにフランス風の洒脱の味を盛り込
みました。フランス組曲は、古いフランスの民謡や舞曲
に基づいた明解な作品で、もともとはピアノ独奏用とし
て有名ですが、プーランク自身により、2本のオーボエ、
2本のファゴット、2本のトランペット、3本のトロン
ボーン、それにチェンバロとタンプリンを加えたひじょう
に風変りな編成に、編曲されたのでした。これらの楽
器の枯れて乾いた音色が、洒脱の味をひきたてていると
いえるでしょう。

- 第1曲 ブルゴーニュのブランル舞曲
- 第2曲 バヴァーナ
- 第3曲 軍隊小行進曲
- 第4曲 嘆き
- 第5曲 シャンパーニュのブランル舞曲
- 第6曲 シチリア舞曲
- 第7曲 カリヨン

★イベル/ディヴェルティスマン(喜遊曲)

イベルも、ほぼプーランクと同時代に生まれたフラ
ンスの作曲家です。プーランクと同じような方向をも
った作曲家ですが、その作風はりゅうちょうで機知に富み、
よりポピュラリティに富んでいるといえるでしょう。こ
の時代のフランスの作曲家は、器楽曲のほかにオペラや、
バレエなどの劇場音楽も数多く残しましたが、このディ
ヴェルティスマンも、もとは劇場音楽でした。1930年に
書かれた喜歌劇「イタリアの麦わら帽子」のなかから6
曲を選んで演奏会用の組曲にまとめたものなのです。編
成は、オーケストラの管楽器をそれぞれ1本ずつに少数
の弦楽器、ピアノ、打楽器を加えた変った編成で、メン
デルスゾーンの名な結婚行進曲のパロディなどもはい
っていて、全体にユーモアのセンスに富んだ楽しい作品
となっております。

- 第1曲 序奏
- 第2曲 行列
- 第3曲 夜想曲
- 第4曲 円舞曲
- 第5曲 バレード
- 第6曲 終曲